

円安暮らしを直撃

原料高・原油高重なり 食品や雑貨値上げ



すでに値上げされたというマヨネーズ=
28日午後、東京都江東区、細川卓撮影

円安が一時、1ドル=131円を超えるまで進んだ。原材料の高騰もあり、暮らしの企業の活動に影響が広がる。毎日の買い物や外食の費用がかさみ、消費者は頭を悩ます。企業にとって円安は「プラス」とマイナスの両面があるが、激しい動きに経営者は対応を迫られている。

▼1面参照

輸入元「ここまで来ると…」

円安は食品や雑貨など様々なものの値上がりにつながる。小売店に並ぶ商品では、今年に入って値上げが続く。都内のスーパーで28日に買い物をした女性(61)は、「菓子やコーヒー、愛犬のおむつなど」の値上がりを危惧する。「材料費や燃料が上がっていくのは2~3年では解決しないと脅す。今のうち買わなければいけないと、ついで駆り立てられちゃう」と話していた。

全国で数十店舗を開設するワイン輸入・販売会社は、輸入ワイン約5000品

目にも値上げする。上げ幅は5~10%の予定だ。

天候やコロナ禍によって欧米のワインの価格が上

昇。原油高で物流費もかさみ、今年に入って値上げを検討していたという。そこには円安が加わり、担当者は「トリブルパンチの最後の一手段か」という状態。このままでくると「上がるを得ない」と話す。

沖縄を中心に全国に店舗がある外食チェーン「ゆつぱりステーキ」も円安に苦

しむ。輸入牛肉が天候などの影響で高くなり、一部の

部位「ミスジ」のステーキ

で、なんとか価格を維持しそう」としている。

2月の値上げでは、希少

部位「ミスジ」のステーキ

で、150円ほどに減らして

価格は据え置いた。ハンバ

ーグとステーキの新メニュー

「ミスジ」を2月に値上げした。

「千円ステーキ」とい

った客層はメニューが売り

たが、150円ほどに減らして

価格は据え置いた。ハンバ

ーグとステーキの新メニュー

「ミスジ」を2月に値上げした。

「千円ステーキ」とい

った客層はメニューが売り

たが、150円ほどに減らして